

景況調査

報告書

No. 103

令和6年4月～6月
令和6年7月～9月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和6年度第1四半期(令和6年4月～6月)景況調査

1. 調査時点 令和6年7月1日～7月25日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 90 [83 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	39 (3)	8 (2)	11 (1)	13	12 (1)	7	90 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-3.4、前期実績(-31.2)に比較すると27.8ポイントと上昇の傾向が見られ、前年同期比では、-16.6、前期実績(-21.9)に比較すると5.3ポイントと横バイの傾向が見られた。売上DI値は、前期比で4.4、前期実績(-41.6)と比較すると46.0ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-17.8、前期実績(-33.3)と比較すると15.5ポイントと上昇の傾向が見られた。総合判断来期見通しは-5.5、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-3.4)と比較すると-2.1ポイントと横バイの傾向が見られた。

「製造業」のうち食品は前年同期比・前期比とも上昇傾向。コストアップの価格転嫁の課題に加え、消費者の節約志向で特に贈答品分野には影響がみられる。織物はカーテン等のインテリアの動きが鈍く、販売先の二極化が進んでおり、有望な取引先・分野に向けた企画力・提案力を強化する必要がある。漁網・ロープは販売数量はほぼ横バイも販売金額は、値上げ効果により前年比増加も、原材料・運送費等の上昇分の十分な価格転嫁ができない企業もあり収益環境は厳しい。鉄工のうち工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は4月1,209億円、5月1,245億円、6月1,338億円。対前年比で内需は横バイ～微減も、5月以降の外需は中国向け中心に回復傾向。当地区でも緩やかに回復基調にある。自動車関連は、トヨタ自動車認証不正等による稼働停止の影響が複数の事業者から上がってきた。またダイハツ工業関係の受注は回復傾向にある。化学工業はインフレ・円安による原材料高により利幅が圧迫されている。プラスチックは原油高、円安による原材料価格高騰と、自動車部品の荷動きの鈍さもあり厳しい状況。

「建設業」は閑散期ながら公共・民間とも比較的工事案件があった。ただし、人材不足により対応が難しい状況や、資材高騰・社会保険料の負担増による利幅縮小を訴える声もあった。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>今期の車両用基布は10～12月同様に落ち込んだ状態で自動車認証不正問題による生産停止の影響があった。他の資材用途は前期同様に非常に動きが鈍化している。食品値上げ等もあり繊維関係消費が低迷しているように感じる。<インテリア>4～6月は対前年を下回った。4月は比較的稳定であったが5～6月は低調。関連製品市場の荷動き全体が悪い。<アパレル>円安、原材料の値上げに対する価格転嫁が十分できておらず採算が悪化している。

「小売業」はインフレによる消費意欲減退+コストアップの価格転嫁が十分できず収益が伸び悩んだ状況が多く訴えられている。飲食はインフレによる消費意欲減退と値上げ(価格転嫁)が十分にできず、売上は増加も収益は減少傾向にあった。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は、中東の地政学リスクへの警戒感が続くなか、欧米を中心とした金融引き締め(の累積的な影響が世界経済の成長を下押しする影響を受けて80ドル台から70ドル台の間で推移。

「サービス業」のうち旅館関係は当地区全体として期待ほど伸びず。要因は、物価高による節約志向の高まりに加え、能登半島地震に伴う北陸応援割、法改正によるバス運転手の人員不足、インバウンド等の主要都市への集中が向かい風となった。浜名湖花博・潮干狩り・あじさい等の宿泊増への影響は限定的。

「運輸通信業」 貨物輸送では物流では経済・特に製造業の鈍さの影響で、貨物量が減少。また労働時間管理(残業規制)の強化で、人手不足感がより強くなり、仕事はあって設備投資状況は、34事業所(64件)で設備投資が実施され「生産設備(31.3%)」等に投資された。来期は32事業所(66件)が「生産設備(31.8%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、利幅の縮小、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和6年度第1四半期は、前期比で売上はプラスに転じ、収益・総合判断は水面下も数値は上昇(マイナス幅縮小含む)。ただし前年同期比のマイナス幅はより大きく、厳しい状況が現れた。業種毎では、製造業は前期は上回るが前年同期で低下傾向が強く自動車業界の認証不正問題の影響も出た。建設業は閑散期だが一定の仕事量はある反面技術者・人手不足の慢性化が課題。卸売業・小売では消費意欲低迷の他、コストの価格転嫁に苦戦。サービス業は人流正常化により回復傾向にあるが消費意欲の低迷の影響も。運輸通信業は荷動き全体の低調に加え労働時間管理厳正化による人手不足感も加わり不透明な状況が続く。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

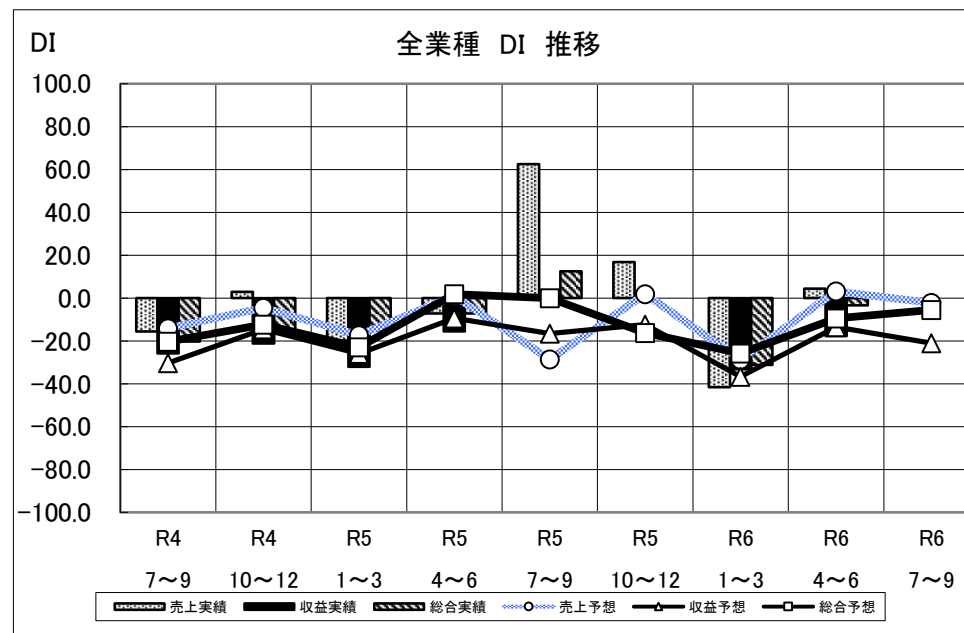
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-5.6	4.4	-2.2	R5.4～6月実績	13.4	-7.2	-2.1	-15.6	0.0	-7.2	-11.3
②製品・商品在庫	-6.6	-7.7	-7.9	R5.7～9月実績	9.6	3.8	-19.0	-14.3	-6.8	-9.7	-16.3
③資金繰り	-8.8	-6.6	-8.8	R5.10～12月実績	3.0	16.8	-9.9	0.0	-9.9	0.0	-25.8
④採算(収益)	-25.6	-17.8	-21.1	R6.1～3月実績	-19.8	-41.6	-31.2	-33.3	-21.9	-31.2	-9.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.1	12.1	2.2	R6.4～6月実績	-5.6	4.4	-25.6	-17.8	-16.6	-3.4	-5.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-3.4	-5.5								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-15.6	2.9	-19.8	-7.2	62.5	16.8	-41.6	4.4	-2.2
収益	-25.8	-21.2	-32.1	-15.6	0.0	0.0	-33.3	-17.8	-21.1
総合	-20.3	-15.4	-15.0	-7.2	12.5	0.0	-31.2	-3.4	-5.5

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加) 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化) 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上

DI 6~49%

DI 5~-5%



DI -6~-49%

DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は15.0、前期実績(1～3月期-31.9)に比して46.9ポイントの上昇、収益DI値は-15.4、前期実績(1～3月期-31.9)に比して16.5ポイントの上昇、総合判断DI値は5.1、前期実績(1～3月期-27.6)に比して32.7ポイントの上昇となった。

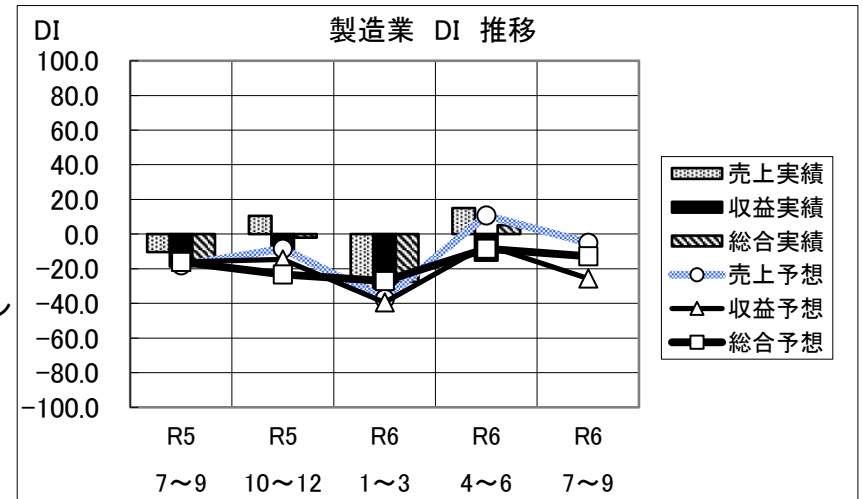
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-5.0ポイントの横バイ、収益DI値は-25.7ポイントの下降、総合判断DI値は-12.9ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	15.0	-5.0
②製品・商品在庫	2.5	2.5	0.0
③資金繰り	-12.5	-10.0	-15.0
④採算(収益)	-28.3	-15.4	-25.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-2.5	12.5	-2.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-15.4	5.1	-12.9



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-10.4	10.5	-31.9	15.0	-5.0
収益	-18.8	-10.4	-31.9	-15.4	-25.7
総合	-17.0	-2.1	-27.6	5.1	-12.9

[食料品]

売上DI値は80.0、前期実績(1～3月期-66.6)に比して146.6ポイントの上昇、収益DI値は40.0、前期実績(1～3月期-83.3)に比して123.3ポイントの上昇、総合判断DI値は20.0、前期実績(1～3月期-50.0)に比して70.0ポイントの上昇となった。前年同期比・前期比とも上昇傾向。コストアップの価格転嫁の課題に加え、消費者の節約志向で特に贈答品分野には影響がみられる。

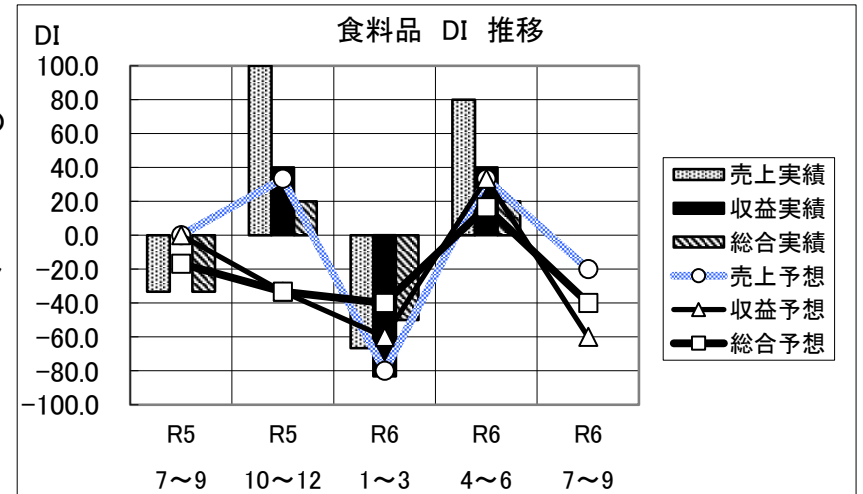
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-20.0ポイントの下降、収益DI値は-60.0ポイントの下降、総合判断DI値は-40.0ポイントの下降となっている。原材料高等のコストアップによる利益縮小に懸念が示された。インフレ傾向の長期化のもと商品・価格戦略の重要性が高まっている。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	60.0	80.0	-20.0
②製品・商品在庫	40.0	40.0	20.0
③資金繰り	0.0	20.0	-20.0
④採算(収益)	0.0	40.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	20.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-33.3	100.0	-66.6	80.0	-20.0
収益	0.0	40.0	-83.3	40.0	-60.0
総合	-33.3	20.0	-50.0	20.0	-40.0

【織物】

売上DI値は-50.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は50.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して100.0ポイントの上昇となった。カーテン等のインテリアの動きが鈍く、販売先の二極化が進んでおり、有望な取引先・分野に向けた企画力・提案力を強化する必要がある。

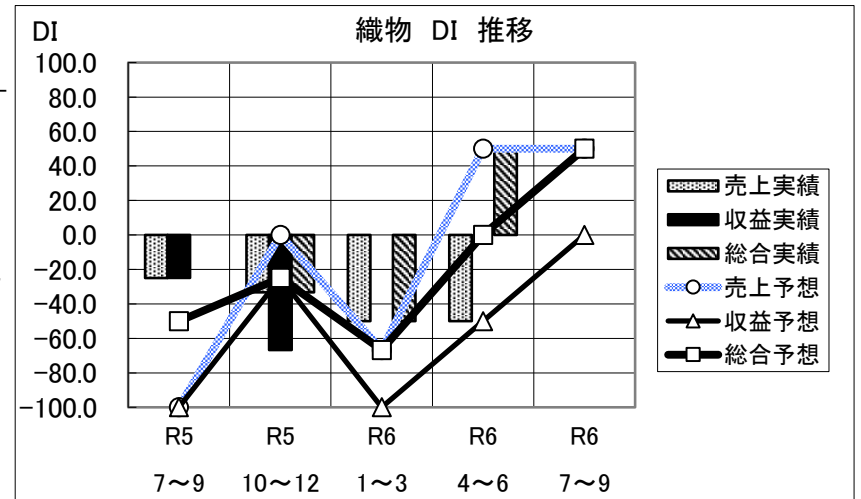
向こう3カ月の見通し

売上DI値は50.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は50.0ポイントの上昇となっている。例年に比べて荷動きが不透明で、独自の販路開拓や設備投資計画にも注意が必要。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-100.0	-50.0	50.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	50.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	50.0	50.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-25.0	-33.3	-50.0	-50.0	50.0
収益	-25.0	-66.7	0.0	0.0	0.0
総合	0.0	-33.3	-50.0	50.0	50.0

【漁網・ロープ】

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期-33.3)に比して33.3ポイントの上昇、収益DI値は-60.0、前期実績(1~3月期-33.3)に比して-26.7ポイントの下降、総合判断DI値は-40.0、前期実績(1~3月期-33.3)に比して-6.7ポイントの下降となった。販売数量はほぼ横バイも販売金額は、値上げ効果により前年比増加も、原材料・運送費等の上昇分の十分な価格転嫁ができない企業もあり収益性は厳しい。

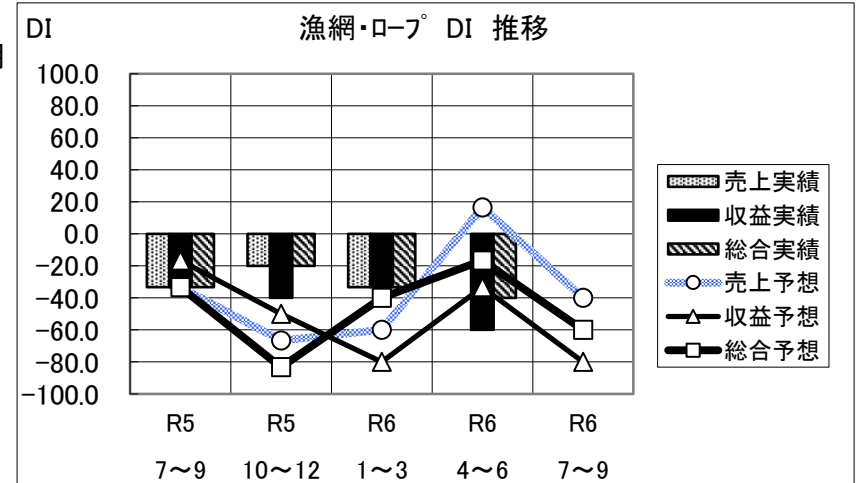
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-40.0ポイントの下降、収益DI値は-80.0ポイントの下降、総合判断DI値は-60.0ポイントの下降となっている。漁業関係の減少と気候変動等による不漁の影響で漁業関係需要は減少傾向。建設関連では人手・資材不足による発注調整も出荷の足枷となっており、見通しは厳しい。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	0.0	-40.0
②製品・商品在庫	-20.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-20.0
④採算(収益)	-80.0	-60.0	-80.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-40.0	-60.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-33.3	-20.0	-33.3	0.0	-40.0
収益	-33.3	-40.0	-33.3	-60.0	-80.0
総合	-33.3	-20.0	-33.3	-40.0	-60.0

【鉄工】

売上DI値は33.4、前期実績(1～3月期-25.0)に比して58.4ポイントの上昇、収益DI値は-14.3、前期実績(1～3月期-30.0)に比して15.7ポイントの上昇、総合判断DI値は6.6、前期実績(1～3月期-30.0)に比して36.6ポイントの上昇となった。工作機械関連では、日本工作機械工業会の受注総額は4月1,209億円、5月1,245億円、6月1,338億円。対前年比で内需は横バイ～微減も、5月以降の外需は中国向け中心に回復傾向。当地区でも緩やかに回復基調にある。自動車関連は、トヨタ自動車認証不正等による稼働停止の影響が複数の事業者から上がってきた。またダイハツ工業関係の受注は回復傾向にある。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は13.3ポイントの上昇、収益DI値は7.2ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。外需を中心に需要は回復基調にあり、今期よりも仕事量全体では増加する見込み。自動車関係では、トヨタグループの日当たり生産台数は14,000台未満と前年同期比やや減少傾向で推移する見通し。足元では業界の構造変化も受け二極化が更に進む見込み。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-13.3	33.4	13.3
②製品・商品在庫	0.0	-6.7	0.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-13.4
④採算(収益)	-21.5	-14.3	7.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	26.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	6.6	0.0

【化学・プラスチック】

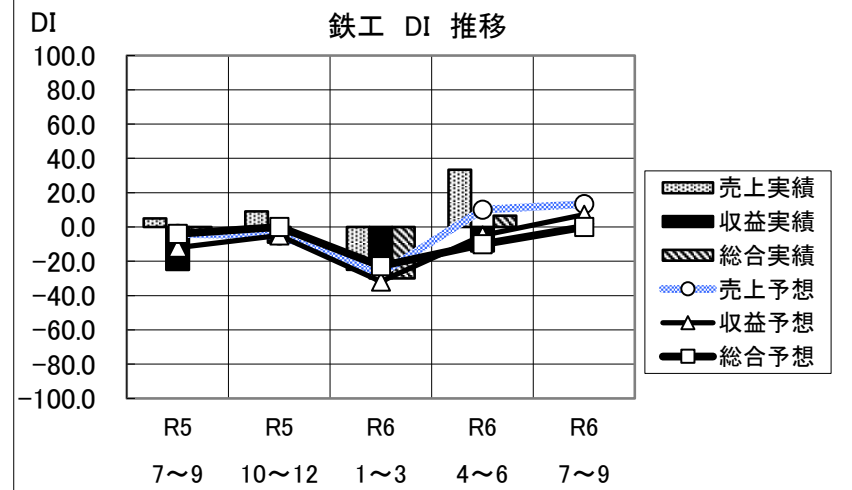
売上DI値は20.0、前期実績(1～3月期0.0)に比して20.0ポイントの上昇、収益DI値は20.0、前期実績(1～3月期0.0)に比して20.0ポイントの上昇、総合判断DI値は50.0、前期実績(1～3月期0.0)に比して50.0ポイントの上昇となった。<化学>インフレ・円安による原材料高により利幅が圧迫されている。<プラスチック>原油高、円安による原材料価格高騰と、自動車部品の荷動きの鈍さも厳しい状況。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-20.0ポイントの下降、収益DI値は20.0ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0ポイントの上昇となっている。<化学>今期と同様の見込み。<プラスチック>原油高、円安による原料価格高騰が続く見込み。輸出を含め経済全体が低調で不透明な状況が続く。

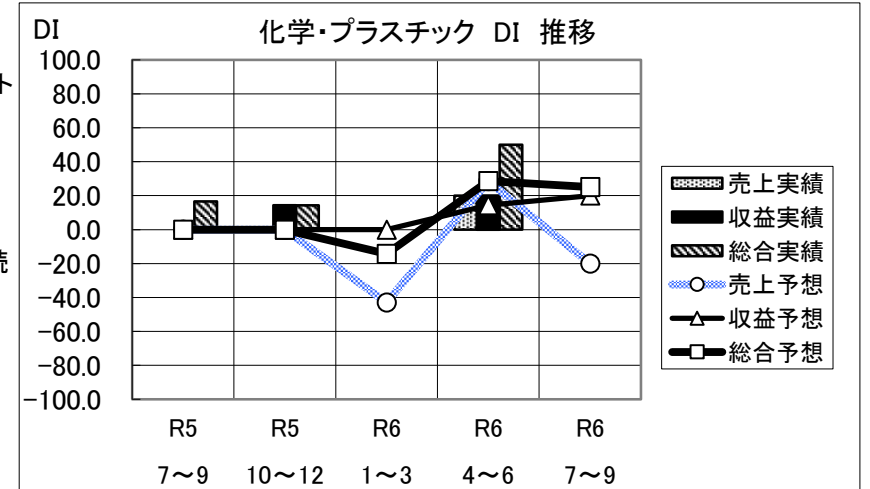
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	20.0	-20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	20.0	20.0	20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	40.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	50.0	25.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	5.0	9.1	-25.0	33.4	13.3
収益	-25.0	-9.1	-30.0	-14.3	7.2
総合	-5.0	0.0	-30.0	6.6	0.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	0.0	0.0	20.0	-20.0
収益	0.0	14.3	0.0	20.0	20.0
総合	16.6	14.3	0.0	50.0	25.0

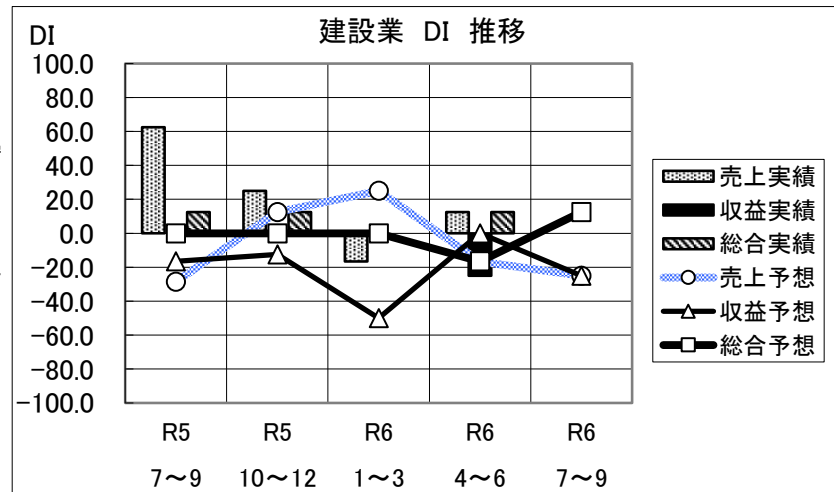
建設業

売上DI値は12.5、前期実績(1～3月期-16.6)に比して29.1ポイントの上昇、収益DI値は-25.0、前期実績(1～3月期0.0)に比して-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は12.5、前期実績(1～3月期0.0)に比して12.5ポイントの上昇となった。閑散期ながら公共・民間とも比較的工事案件があった。ただし、人材不足により対応が難しい状況や、資材高騰・社会保険料の負担増による利幅縮小を訴える声もあった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-25.0ポイントの下降、収益DI値は-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は12.5ポイントの上昇となっている。仕事に対して、現場技術者の人手不足と発注時期の分散が業界全体の課題。

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	12.5	-25.0
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	0.0
③資金繰り	0.0	12.5	0.0
④採算(収益)	-50.0	-25.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-37.5	-25.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	12.5	12.5



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	62.5	25.0	-16.6	12.5	-25.0
収益	0.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0
総合	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5

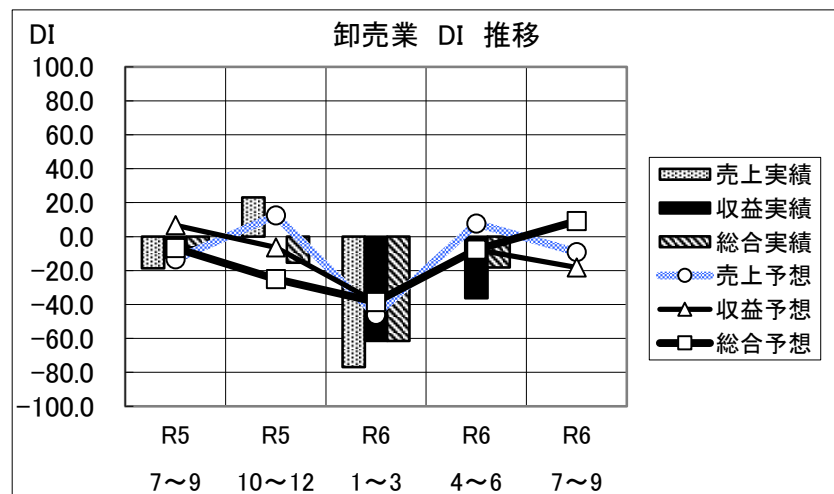
卸売業

売上DI値は0.0、前期実績(1～3月期-76.9)に比して76.9ポイントの上昇、収益DI値は-36.3、前期実績(1～3月期-61.5)に比して25.2ポイントの上昇、総合判断DI値は-18.2、前期実績(1～3月期-61.5)に比して43.3ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-9.1ポイントの下降、収益DI値は-18.2ポイントの下降、総合判断DI値は9.1ポイントの上昇となっている。

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-45.4	0.0	-9.1
②製品・商品在庫	-36.4	-45.5	-30.0
③資金繰り	-9.1	-9.1	0.0
④採算(収益)	-36.3	-36.3	-18.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	9.1	9.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-45.4	-18.2	9.1



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-18.7	23.1	-76.9	0.0	-9.1
収益	-12.5	0.0	-61.5	-36.3	-18.2
総合	-6.3	-15.4	-61.5	-18.2	9.1

【繊維卸】

売上DI値は-10.0、前期実績(1~3月期-75.0)に比して65.0ポイントの上昇、収益DI値は-50.0、前期実績(1~3月期-58.3)に比して8.3ポイントの上昇、総合判断DI値は-30.0、前期実績(1~3月期-66.7)に比して36.7ポイントの上昇となった。<産業資材>今期の車両用基布は10~12月同様に落ち込んだ状態で自動車認証不正問題による生産停止の影響があった。他の資材用途は前期同様に非常に動きが鈍化している。食料品値上げ等もあり繊維関係消費が低迷しているように感じる。<インテリア>4~6月は対前年を下回った。4月は比較的堅調であったが5~6月は低調。関連製品市場の荷動き全体が悪い。<アパレル>円安、原材料の値上げに対する価格転嫁が十分できておらず採算が悪化している。

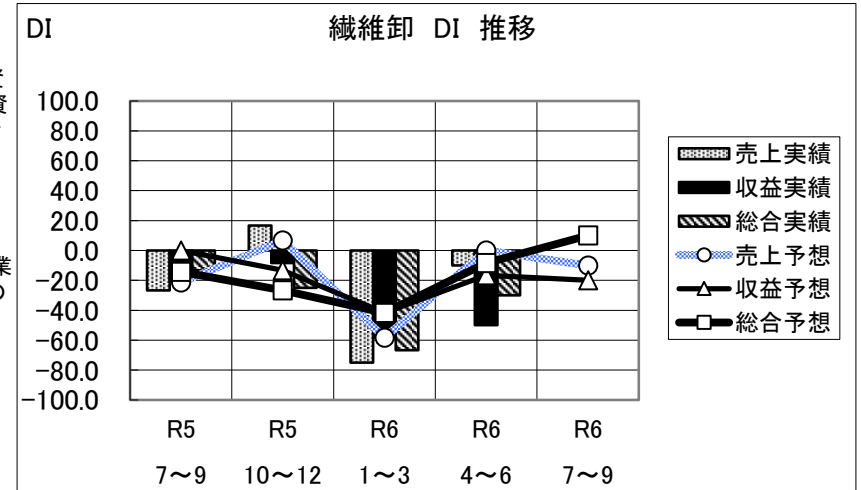
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-10.0ポイントの下降、収益DI値は-20.0ポイントの下降、総合判断DI値は10.0ポイントの上昇となっている。<産業資材>車両用基布は今期同様にやや低調で、他資材用途も同様に厳しい見込み。<インテリア>猛暑による夏物の一定の動きはあるが、今期同様に来期も厳しい状況が想定される。<アパレル>今期同様の状況が続くと取引先も厳しい状況になり、信用不安の拡大が懸念される。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	-10.0	-10.0
②製品・商品在庫	-40.0	-50.0	-33.3
③資金繰り	-10.0	-10.0	0.0
④採算(収益)	-40.0	-50.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-30.0	10.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-26.7	16.7	-75.0	-10.0	-10.0
収益	-20.0	-8.3	-58.3	-50.0	-20.0
総合	-13.3	-25.0	-66.7	-30.0	10.0

小売業

売上DI値は-38.4、前期実績(1~3月期-47.0)に比して8.6ポイントの上昇、収益DI値は-53.8、前期実績(1~3月期-29.4)に比して-24.4ポイントの下降、総合判断DI値は-38.5、前期実績(1~3月期-35.3)に比して-3.2ポイントの横バイとなった。インフレによる消費意欲減退+コストアップの価格転嫁が十分できず収益が伸び悩んだ状況が多く訴えられている。

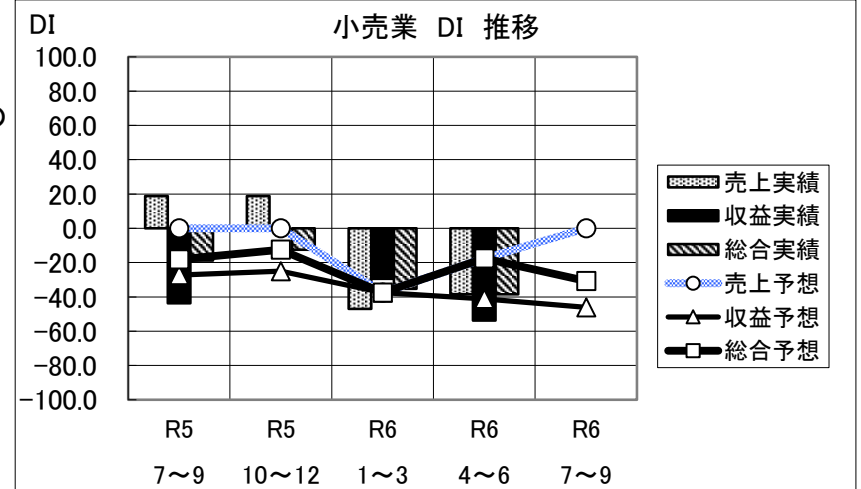
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-46.1ポイントの下降、総合判断DI値は-30.8ポイントの下降となっている。円安・インフレ等による消費意欲の低迷が懸念材料も、夏期の贈答品や消費刺激による需要増に期待。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-38.4	0.0
②製品・商品在庫	-30.8	-30.8	-23.1
③資金繰り	-38.5	-38.5	-23.1
④採算(収益)	-61.5	-53.8	-46.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.1	7.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-30.8	-38.5	-30.8



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	18.8	18.8	-47.0	-38.4	0.0
収益	-43.7	0.0	-29.4	-53.8	-46.1
総合	-18.8	-12.5	-35.3	-38.5	-30.8

[飲食]

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇となった。インフレによる消費意欲減退と値上げ(価格転嫁)が十分にできず、売上は増加も収益は減少傾向にあった。

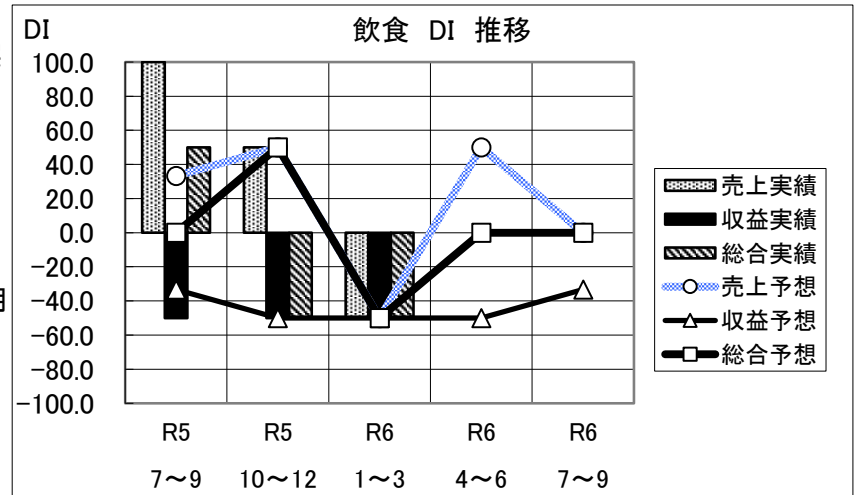
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。夏休みシーズンの到来で家族・団体利用が増加する時期だが、会社利用や冠婚葬祭等の減少から団体の宴会を想定した店舗に厳しい状況が続く見込み。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	33.4	0.0	0.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-33.4	0.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.4	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	100.0	50.0	-50.0	0.0	0.0
収益	-50.0	-50.0	-50.0	0.0	-33.3
総合	50.0	-50.0	-50.0	0.0	0.0

[石油等その他小売]

売上DI値は-66.7、前期実績(1~3月期-42.8)に比して-23.9ポイントの下降、収益DI値は-66.7、前期実績(1~3月期-28.6)に比して-38.1ポイントの下降、総合判断DI値は-66.7、前期実績(1~3月期-28.6)に比して-38.1ポイントの下降となった。原油価格(WTI期近物)は、中東の地政学リスクへの警戒感が続くなか、欧米を中心とした金融引き締めの影響が世界経済の成長を下押しする影響を受けて80ドル台から70ドル台の間で推移。

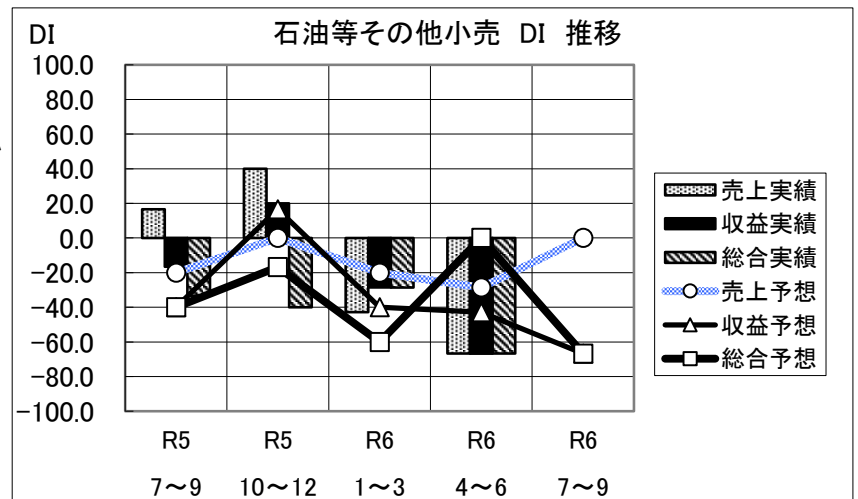
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は-66.7ポイントの下降となっている。長期的には新興国の景気拡大による緩やかな需要拡大に対し、供給サイドが応える形で受給バランスが図られ、原油価格は足元の水準(80ドル前後)を中心に上下5ドル程度のレンジ内での推移が続く見通し。

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-33.3	-66.7	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-66.7	-66.7	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-66.7	0.0	33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	-66.7	-66.7



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	16.6	40.0	-42.8	-66.7	0.0
収益	-16.6	20.0	-28.6	-66.7	-66.7
総合	-33.3	-40.0	-28.6	-66.7	-66.7

サービス業

売上DI値は-8.4、前期実績(1~3月期-57.1)に比して48.7ポイントの上昇、収益DI値は8.3、前期実績(1~3月期-28.6)に比して36.9ポイントの上昇、総合判断DI値は8.3、前期実績(1~3月期-14.3)に比して22.6ポイントの上昇となった。

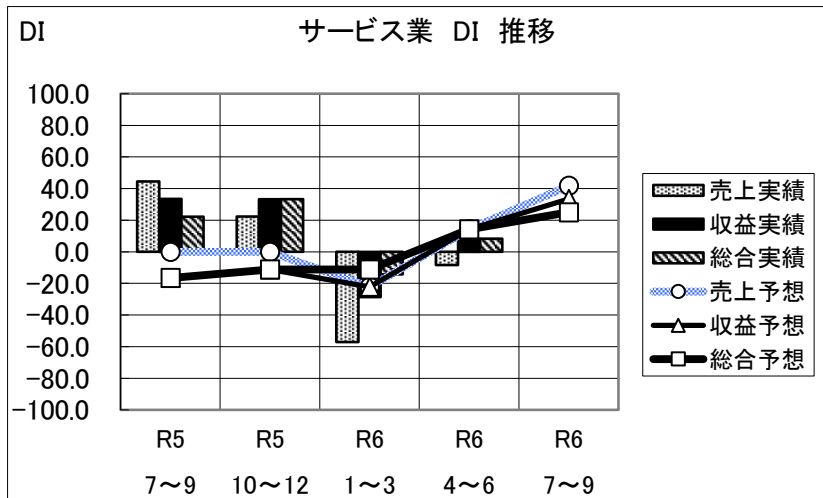
向こう3カ月の見通し

売上DI値は41.7ポイントの上昇、収益DI値は33.4ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0ポイントの上昇となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	-8.4	41.7
②製品・商品在庫	8.3	8.3	-8.3
③資金繰り	16.7	16.7	8.3
④採算(収益)	8.3	8.3	33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	50.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	8.3	8.3	25.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	44.5	22.3	-57.1	-8.4	41.7
収益	33.4	33.3	-28.6	8.3	33.4
総合	22.2	33.3	-14.3	8.3	25.0

【旅館】

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期-66.7)に比して66.7ポイントの上昇、収益DI値は12.5、前期実績(1~3月期-33.3)に比して45.8ポイントの上昇、総合判断DI値は12.5、前期実績(1~3月期-33.3)に比して45.8ポイントの上昇となった。当地区全体として期待ほど伸びず。要因は、物価高による節約志向の高まりに加え、能登半島地震に伴う北陸応援割、法改正によるバス運転手の人員不足、インバウンド等の主要都市への集中が向かい風となった。浜名湖花博・潮干狩り・あじさい等の宿泊増への影響は限定的。

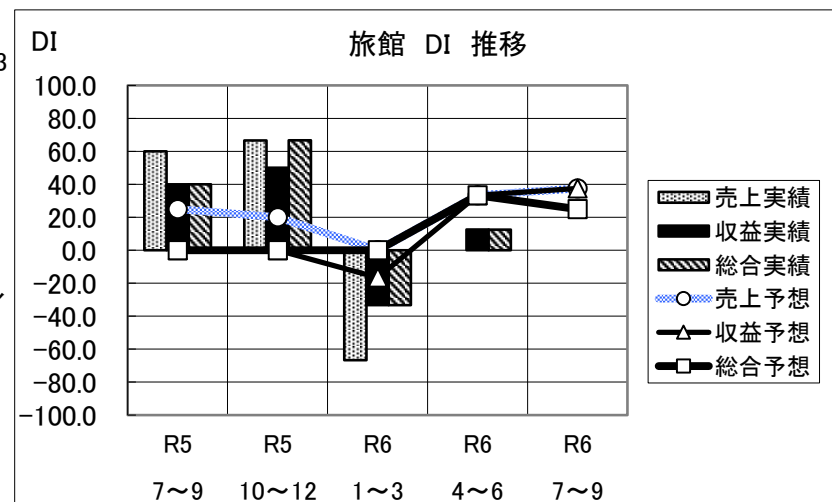
向こう3カ月の見通し

売上DI値は37.5ポイントの上昇、収益DI値は37.5ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0ポイントの上昇となっている。最盛期である夏休みシーズンに期待。気候の関係で間際予約が増え、その多くOTA(オンライン旅行代理店)から。9月以降は物価高等により不透明。今後インバウンド受入体制を強化していきたい。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和5年4月~6月 に比べて	前期比 令和6年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	0.0	37.5
②製品・商品在庫	12.5	12.5	-12.5
③資金繰り	37.5	37.5	12.5
④採算(収益)	12.5	12.5	37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	50.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	12.5	25.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	60.0	66.6	-66.7	0.0	37.5
収益	40.0	50.0	-33.3	12.5	37.5
総合	40.0	66.7	-33.3	12.5	25.0

運輸通信業

売上DI値は42.8、前期実績(1～3月期-33.3)に比して76.1ポイントの上昇、収益DI値は28.6、前期実績(1～3月期-33.3)に比して61.9ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(1～3月期-33.3)に比して33.3ポイントの上昇となった。

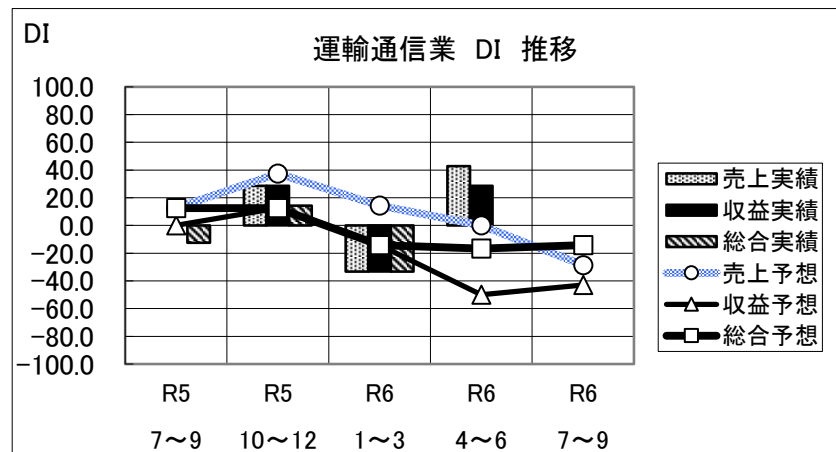
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-28.6ポイントの下降、収益DI値は-42.9ポイントの下降、総合判断DI値は-14.3ポイントの下降となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	42.8	-28.6
②製品・商品在庫	16.7	16.7	0.0
③資金繰り	14.3	14.3	0.0
④採算(収益)	42.8	28.6	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-14.3



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	28.6	-33.3	42.8	-28.6
収益	0.0	28.6	-33.3	28.6	-42.9
総合	-12.5	14.3	-33.3	0.0	-14.3

[旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は33.3、前期実績(1～3月期-20.0)に比して53.3ポイントの上昇、収益DI値は16.6、前期実績(1～3月期-20.0)に比して36.6ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(1～3月期-20.0)に比して20.0ポイントの上昇となった。物流では経済・特に製造業の鈍さの影響で、貨物量が減少。また労働時間管理(残業規制)の強化で、人手不足感がより強くなり、仕事はあっても人がいない状態が散見される。

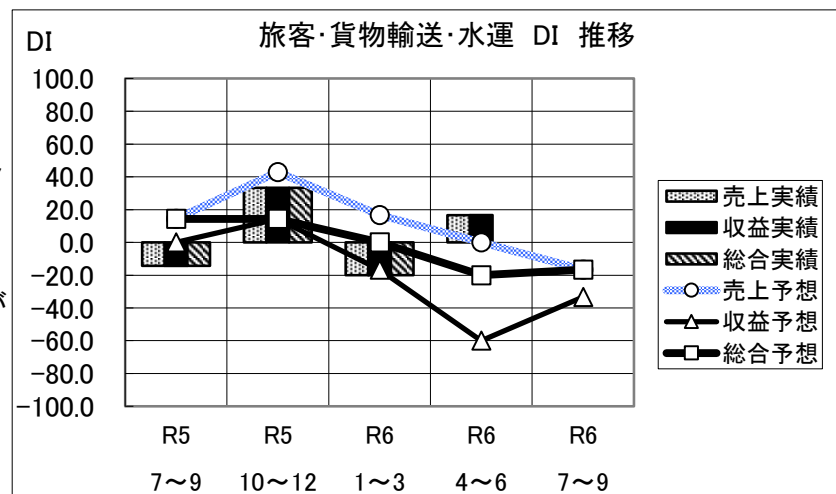
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-16.6ポイントの下降、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。物流の2024年問題の影響で運べる荷物の幅が縮小傾向。人手不足や労働時間管理などが構造的な業界の共通課題に、また、自動車業界を中心に昨今の商流の悪さを指摘する声もあった。

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和5年4月～6月 に比べて	前期比 令和6年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和6年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	40.0	33.3	-16.6
②製品・商品在庫	20.0	20.0	20.0
③資金繰り	16.7	16.7	0.0
④採算(収益)	33.3	16.6	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.6	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-16.7

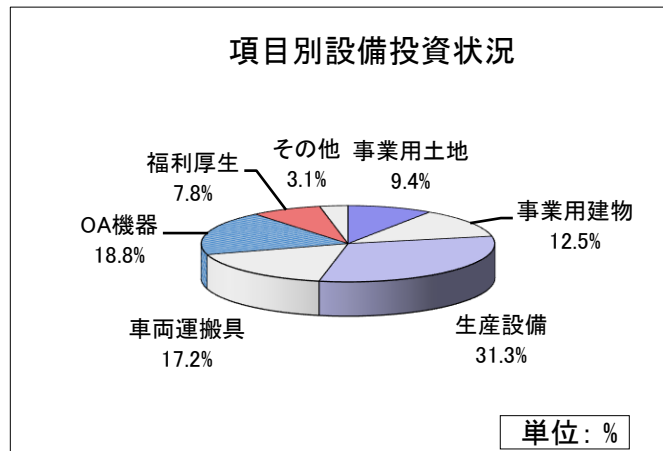
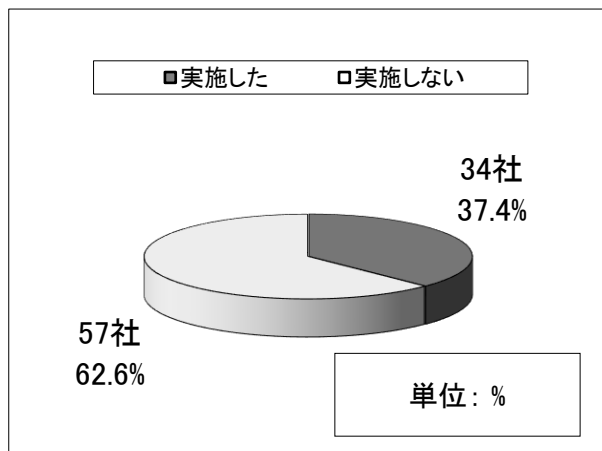


<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-14.3	33.3	-20.0	33.3	-16.6
収益	-14.3	33.3	-20.0	16.6	-33.3
総合	-14.3	33.3	-20.0	0.0	-16.7

7. 設備投資動向

＜今期 R6.4～6＞ 設備投資実施状況 全業種＞

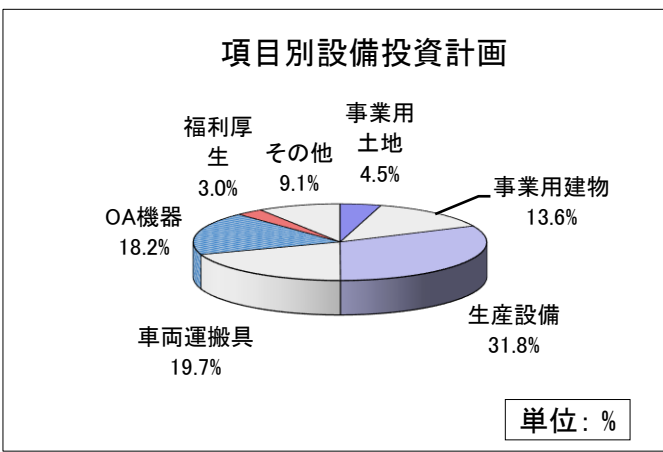
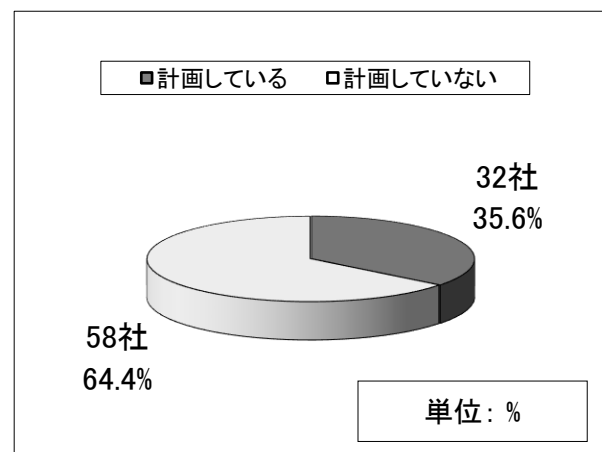


◎設備投資内容(全業種)

	今期
事業用土地	6
事業用建物	8
生産設備	20
車両運搬具	11
OA機器	12
福利厚生	5
その他	2
計	64

(単位:件)

＜来期 R6.7～9＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資計画内容(全業種)

	来期見通し
事業用土地	3
事業用建物	9
生産設備	21
車両運搬具	13
OA機器	12
福利厚生	2
その他	6
計	66

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R6.4～6	34	16	3	2	4	6	3
2. 来期	R6.7～9	32	18	2	2	2	4	4

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 90 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	40 44.4%
2	原材料(燃料)高	37 41.1%
3	利幅の縮小	34 37.8%
4	人手不足	19 21.1%
5	人件費の増加	14 15.6%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 39 社	売上の停滞・減少 19 社 48.7%	利幅の縮小 16 社 41.0%	原材料(燃料)高 16 社 41.0%
建設業 8 社	売上の停滞・減少 4 社 50.0%	原材料(燃料)高 4 社 50.0%	人手不足 3 社 37.5%
卸売業 11 社	売上の停滞・減少 7 社 63.6%	原材料(燃料)高 6 社 54.5%	利幅の縮小 4 社 36.4%
小売業 13 社	利幅の縮小 7 社 53.8%	売上の停滞・減少 5 社 38.5%	人件費の増加 3 社 23.1%
サービス業 12 社	原材料(燃料)高 6 社 50.0%	人手不足 4 社 33.3%	利幅の縮小 3 社 25.0%
運輸通信業 7 社	売上の停滞・減少 3 社 42.9%	利幅の縮小 2 社 28.6%	人件費の増加 2 社 28.6%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 103

番号	調査項目	単位	R06.8報告	基準日	R06.5報告	基準日	R06.2報告	基準日	R05.11報告	基準日	出典
1	人口	人	77,769	R6.7.1	77,904	R6.4.1	78,140	R6.1.1	78,199	R5.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,573		3,520		3,482		3,422		
2	世帯数	世帯	33,779	R6.7.1	33,656	R6.4.1	33,593	R6.1.1	33,506	R5.10.1	"
	(うち外国人)		1,820		1,761		1,723		1,671		
3	15才～65才生産人口	人			45,534	R6.4.1	45,675	R6.1.1	46,257	R5.10.1	"
	(うち外国人)				2,874		2,838		3,346		
4	全国完全失業率	%	2.6	R6.5月	2.6	R6.2月	2.5	R5.11月	2.7	R5.8月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%			2.0	R6.1～3	1.7	R5.10～12	2.0	R5.7～9	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.24	R6.5月	1.26	R6.2月	1.28	R5.11月	1.29	R5.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.60	R6.5月	0.70	R6.2月	0.68	R5.11月	0.68	R5.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 「ハローワーク 業務月報」

